

“岐阜空襲”から 今年で77年目の7月9日  
空襲でお亡くなりになった方々のご冥福と平和が続きますことを  
願って、今年も近所のお寺で「平和の鐘」を鳴らして来ました!

長良・岩野田  
九条の会だより

No.180  
2022年  
7,8月合併号  
事務局連絡先: 林  
090-6769-9809



ウクライナでの戦争が毎日報道されてきている今!  
「武力で平和はつくれない!」と、強く実感している!  
私たちは今、「平和の鐘」を鳴らすことしかできない!



★崇福寺→の住職は、ロシアとウクライナの戦争が一日も早く終わる事と、物事には何事にも因縁があり、自分の思うようになる事はない。古代インドのシヤカ族とコーサラ国の戦争と「仏の顔も三度まで」の由来など話されました。(井深)

★中学生一人と小学生三人を連れて一緒に専応寺へ真性寺へ専法寺と回りました。順番に鐘をついている間に住職のお母様がお菓子を用意してくださっていただきました。その後、専応寺で他の人達と合流して真竜寺へ真福寺へと廻りました(林・加藤)

★妙徳寺でも五人ほどで静かに鐘をついてきました。(平塚)

★専応寺→では子ども達は焼夷弾の話聞いてから本堂でお参りして真性寺の辺りでは弟を連れて必死で逃げた話や境内に焼死体が並べられていた話を聞きました。(林・加藤)

★覚願寺へ二人で鐘つきに行っていました。(井口)

政治が教育に介入してきている! 映画「教育と愛国」を観て!

今から数年前、テレビで幼稚園児が教育勅語を一齐に暗唱する姿が映っていて「安倍さん頑張ってください!」と斉唱している映像を観た。これは長年、教育現場を取材し、テレビ放送を続けてこられた毎日放送ディレクターの齊加尚代さんをチーフとする取材班によるものでした。今年六月、これまでの取材をまとめた映画「教育と愛国」が上映されているとの新聞記事を見て、早速、名古屋へ出かけて観てきました。そうしたら、籠池氏の『塚本幼稚園での教育勅語の暗唱』以上に驚くことばかり!

第二次安倍政権は教育勅語の教材利用を閣議決定で認めていて、政治が教育への関与を次々と築く様子が良く分かり、齊加さんの取材への熱い思いが伝わってきました。それと共に「事態はここまで来ているのだ」との危機迫るものがありました。この映画は多くの人に観て欲しいのですが、観ることができない場合でも映画の内容は岩波書店から出版されている「教育と愛国」で読むことができます。

齊加さんは最後に「権力者がその権力をむきだしにして、黙って従え!」と言ってきたとき、子ども達や住民の側に寄り添うのが教育であり、メディアなのだ」と締め括っています。(白井)

【映画案内】この映画は毎日放送で報道記者として20年以上にわたり教育現場を取材してきた齊加尚代監督がギャラクシー賞大賞を受賞した『映像'17 教育と愛国～教科書でいま何が起きているのか』に追加取材し再構成したドキュメンタリー映画です。

戦前の教育が軍国主義へと流れた反省から、戦後は常に政治とは一線を画してきたのですが、しかし、2006年、第一次安倍晋三政権下で教育基本法が改正され、戦後、初めて「愛国心」が盛り込まれて以降、「教育改革」や「教育再生」の名のもとに、教科書検定制度は目に見えない力を増してきているのです。そのような、教育への政治介入とも言える状況の中で齊加尚代記者は『歴史の記述を契機に倒産に追い込まれた大手教科書出版社の元編集者』や『保守系の政治家が薦める教科書の執筆者など』へのインタビューや『新しく採用が始まった教科書を使用する学校』や『慰安婦問題など加害の歴史を教える教師や大学の研究者へのバッシング』等々を記録し更には『日本学術会議任命拒否問題』など、最新の教育事情を記録していったのです。

※ この映画は名古屋市今池の映画館で8月19日までアンコール上映されています。